

えん罪救済センターNEWS No.1

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学 人間科学研究所気付 えん罪救済センター

URL: <http://www.ipjapan.org/> email: ipj2015@outlook.com Tel/Fax 075 (466) 3362 (受付時間 9:00~17:30、土日祝日を除く)



CONTENTS

設立のご挨拶

今後の活動について

立ち上げシンポジウム報告

報道のご紹介

ご寄付のお願い



今後の活動について

当センターは、2016年4月1日より本格的に活動を開始いたしました。**センターでは、冤罪事件の当事者およびその代理人に対する支援を無料で提供します。**

センターで支援を検討する事件は以下の通りです。

犯人でないのに犯人として起訴された刑事事件（犯罪ではないのに犯罪として起訴された事件を含みます）。なお、判決が確定しているか確定していないかは問いません。

お申し込みは、本人が弁護士、又はご本人と確実に連絡がとれる方からのご連絡をお願いいたします。

以上の条件を満たした事件につき支援を希望される方からお申込みがあった場合には、**DNA鑑定などの客観的証拠により冤罪の立証が可能であるかという点について検討**した上で、センターで支援が可能かどうかを判断いたします。

相談が持ち込まれた場合には、弁護士、法学や心理学の専門家のみならず、法科学、情報科学、認知科学の専門家が参加する検討会議で、支援が可能か、どのような支援を行いうるかを判断します。

すでに多くの相談が寄せられています。実際に支援をするか否かの決定を行い、さらに実際の支援活動をするまでには、長期間がかかる見込みです。少しでも早く活動を軌道に乗せるべく、努力していく次第です。

代表：稲葉光行（立命館大学教授）

副代表：笹倉香奈（甲南大学教授）

事務局：山田早紀（立命館大学補助研究員）

運営委員（五十音順）：池田良太（弁護士）石側亮太（弁護士）

指宿信（成城大学教授）今村核（弁護士）木谷明（弁護士）

木村祐子（龍谷大学矯正・保護総合センター嘱託研究員）

黒原智宏（弁護士）小池哲朗（弁護士）後藤真人（弁護士）

サトウタツヤ（立命館大学教授）佐藤博史（弁護士）

辻孝司（弁護士）遠山大輔（弁護士）徳永光（獨協大学教授）

長尾一司（弁護士）浜田寿美男（立命館大学特別招聘教授）

平岡義博（立命館大学特別招聘教授）正木幸博（弁護士）

森久智江（立命館大学准教授）

設立のご挨拶



この度、2016年4月1日に「えん罪救済センター」（英語名：Innocence Project Japan）を設立し、活動を開始いたしました。「えん罪救済センター」は刑事事件の冤罪の被害者を支援し救済すること、そして冤罪事件の再検証を通じて公正・公平な司法を実現することを目指しています。

アメリカで1990年代に始まり、全世界に広がりつつある「イノセンス・プロジェクト」の活動を参考にして、司法実務家、法学者、心理学者、情報科学者、一般市民などの有志により、2016年4月1日に設立されました。

近年、足利事件、布川事件、東電女子社員殺人事件など多くの冤罪事件について再審の結果、無罪が言い渡されてきました。日本の司法制度改革に関する社会的な関心も高まっています。

えん罪救済センターの活動に、皆様からの幅広いご支援を賜ればと存じます。

えん罪救済センター代表・稲葉光行

立ち上げシンポジウム報告

センターの設立に先立ちまして、2016年3月18日・20日に立ち上げシンポジウムを開催しました。

3月18日は東京のTKC本社研修室にて、シンポジウム「死刑えん罪とDNA鑑定」を、3月20日は大阪茨木市の立命館大学大阪いばらきキャンパスにて、シンポジウム「えん罪救済の新たな幕開け」を連続して開催し、いずれにも150人を超える方にお越し頂きました。

海外からも、冤罪救済に関わってこられた方々がゲストとして参加されました。

アメリカからは、カリフォルニア州で20年前にイノセンス・プロジェクトを設立し、現在では南アメリカの各地のプロジェクトを支援しているジャスティン・ブルックス氏（カリフォルニアウェスタン・ロースクール教授）、オハイオ州のイノセンス・プロジェクトを率い、ヨーロッパのイノセンス・プロジェクトのネットワーク立ち上げに尽力しているマーク・ゴッドシー氏（シンシナティ大学ロースクール教授）、そして、DNA鑑定によって雪冤された最初の250件について詳細な分析を行い、アメリカにおける冤罪原因を実証的に明らかにした『冤罪を生む構造』（翻訳：笹倉・豊崎・本庄・徳永、日本評論社・2014年）の著者であるブランドン・ギャレット氏（ヴァージニア大学ロースクール教授）の出席を得ました。

また、以前から日本のメンバーと交流を深めてきた、台湾のイノセンス・プロジェクト「冤獄平反協会」から、理事長の羅秉成氏、代表の羅士翔氏、理事の金孟華氏、前代表の陳又寧氏にご参加頂きました。

3月18日のシンポジウム「死刑えん罪とDNA鑑定」では、アメリカの死刑事件における冤罪原因や問題を解決するための法改正の状況（ギャレット氏）やイノセンス・プロジェクトの活動の実際の様子（ブルックス氏）等に関する講演のほか、稲葉代表より「えん罪救済センター」の活動の概要についての講演がありました。また、パネル・ディスカッションでは、足利事件弁護団の佐藤博史弁護士、袴田事件弁護団の戸館圭之弁護士から、日本における冤罪事件弁護の問題点やDNA鑑定の意義について発言が行われました。

参加者からは、「法律家以外の方が代表をつとめておられることに可能性を感じています。えん罪救済の弁護士・市民の活動は様々ありますが、なかなか横のつながり、情報、ノウハウの交流が実現できていません。プロジェクトがその柱となるよう願っています」、「米国のイノセンス・プロジェクトが草の根から始まった、特に学生たちの研究、調査、活動が大きな力となっていることに、力をいただいた」などの感想が寄せられました。

3月20日のシンポジウム「えん罪救済の新たな幕開け」では、ギャレット氏、ブルックス氏、稲葉氏による講演のほか、日本で冤罪事件に関わってきた弁護士による講演やパネル・ディスカッション、コメントが行われ、日本における冤罪原因や冤罪事件弁護の現状と弁護人が直面する制度的・実務的な困難、そして「えん罪救済センター」への期待が語られました。ディスカッションにおいては、DNA鑑定が冤罪を晴らす決め手になりうると同時に、使い方を誤れば、それが冤罪を生む道具にもなりうるという点の指摘もなされました。さらに、台湾のプロジェクトでは設立から4年足らずで3件の冤罪を晴らしていること、プロジェクトの活動が刑法の改正にも結び付きつつあることが紹介されました。

シンポジウムでは、世界的な冤罪救済運動の意義も明らかになりました。

冤罪の原因は、全世界で共通しています。虚偽の自白、誤った目撃証言、誤った科学鑑定、違法な捜査……そして冤罪原因を生んでいる制度的な要因にも共通点があります。冤罪を明らかにするために有用な手法も同じです。そうであるならば、冤



写真：シンポジウムの様子（2016.3.20）

えん罪救済センターNEWS No.1

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学 人間科学研究所気付 えん罪救済センター

URL: <http://www.ipjapan.org/> email: ipj2015@outlook.com Tel/Fax 075 (466) 3362 (受付時間 9:00~17:30、土日祝日を除く)

罪の原因究明や防止のためには、諸外国においてどのような実践が行われてきたのかを学び、検証することが有用です。

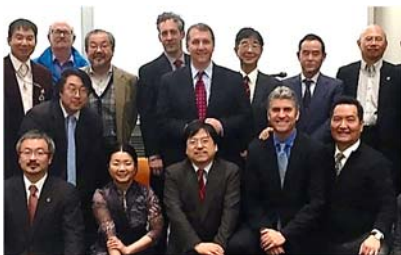
ゴッドシー氏の講演においては、全世界にまたがるイノセンス・ネットワーク（冤罪救済活動のためのネットワーク）のほか、南アメリカやヨーロッパで、類似した法制度を有している国々が提携し、地域ごとの国際冤罪救済ネットワークが生まれつつあることが紹介されました。

アジアにおいてこのようなネットワークを構築することも、我々の課題です。

参加者からは、「えん罪をうみ出す構造について、諸外国と共通する部分と、日本がとくに大きな問題として有している部分と、整理して考察することができた」、「あらためて、このようなプロジェクトが必要であることを実感した。又、様々な分野の方が集結できるセンターが存在することが意義あることと思う」、「世界各国のえん罪事件の原因には共通点があり、えん罪救済のためには各国の協力が必要であるということ強く感じた。今後もイノセンス・プロジェクトの活動に参加していきたいと思った」などの感想をお寄せいただきました。

※ シンポジウムの開催に当たって多大なご協力を下さった日本評論社と(株)TKC、共催を決定して下さった立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)「文理融合による法心理・司法臨床研究拠点(法心理・司法臨床センター)」、立命館大学人間科学研究所・文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連携型研究」、龍谷大学矯正・保護総合センター及び文部科学省科学研究費補助金(新学術領域)【法と人間科学】「犯罪者・非行少年処遇における人間科学的知見の活用に関する総合的研究」(代表:石塚伸一・龍谷大学)、後援を下された日本弁護士連合会、近畿弁護士会連合会、大阪弁護士会、京都弁護士会、奈良弁護士会に改めて御礼申し上げます。

[笹倉香奈]



シンポジウム参加者と(2016.3.20)

報道のご紹介

京都新聞朝刊 2016年4月3日付社説

冤罪の救済 法と科学の連携に注目

「…稲葉光行立命大教授は情報学が専門である。「工学では、たとえば飛行機事故が起きれば原因を徹底究明して、再発を防止しようとする。司法も同様にしないといけない」という。

センターは冤罪の救済だけでなく、冤罪を生み出す構造を明らかにして、冤罪を防ぐ役割を果たそうとする。新しい動きに注目していきたい。…」

産経新聞朝刊 2016年4月4日付

冤罪救え!「日本の司法、遅れている」

「…佐藤弁護士は「日本ではまだ、DNA鑑定が(弁護側でも容易にアクセスできる)中立的な証拠になっていない」と指摘。「裁判には司法と科学、両方の視点が欠かせない。センターは『科学的証拠の取り扱いを正しくしよう』という運動でもある」と強調した。」

毎日新聞朝刊 2016年4月5日付

米プロジェクト参考、立命館大拠点に始動 /京都

「…代表を務める稲葉光行教授(情報学)…「科学技術では世界一、二を争う日本が、司法では遅れている。『同じ間違いを犯さない司法』を実現したい」と話す。」

朝日新聞大阪本社版朝刊 2016年4月7日付

無実の罪、科学が晴らす～イノセンス・プロジェクト

「…「科学の力で冤罪を防ぐ手助けができるのでは」。稲葉教授は昨年3月からIP先進地の米国で取り組みを調べ、旧知の弁護士や研究者らに呼びかけて準備を進めてきた。「資金面の課題はあるが、実績を積み、冤罪を生まない司法の実現に貢献したい」と話す。…」

***2016年3月31日の立ち上げまでの報道**

2015年7月7日: 朝日新聞大阪本社版朝刊

2015年7月7日: NHK “NEWS WEB” 稲葉代表出演

2015年7月29日: J-Wave “Jam the World” 稲葉代表出演

2015年10月3日: 中国新聞、京都新聞

2015年10月4日: 大阪日日新聞朝刊、静岡新聞

2016年2月1日: 毎日新聞朝刊 など

えん罪救済センターNEWS No.1

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学 人間科学研究所気付 えん罪救済センター

URL: <http://www.ipjapan.org/> email: ipj2015@outlook.com Tel/Fax 075 (466) 3362 (受付時間 9:00~17:30、土日祝日を除く)

ご寄付のお願い

「えん罪救済センター」は、日本国内において、冤罪事件の支援を無償で行うことを目的としています。支援を行うにあたっては、専門家による鑑定費用、交通費、印刷代、通信費その他の多額の費用が発生します。

皆様からのご支援により、より手厚く、幅広い冤罪事件の支援を私どもが行うことが可能になります。どうぞご理解とご協力をお願いいたします。

頂戴しましたご寄付は、当センターの冤罪事件支援の活動に使わせて頂きます。

1) お振込み方法について

ゆうちょ銀行からお振込みの場合

記号 14350 番号 82839691

名前 エンザイキュウサイセンター (えん罪救済センター)

他行からお振込みの場合

銀行名 ゆうちょ銀行 店番 438

普通口座 四三八店 (ヨンサンハチ店)

口座番号 8283969

名前 エンザイキュウサイセンター (えん罪救済センター)

2) 領収書の発行について

領収書のご発行をご希望の場合は、下記のお問い合わせ・ご連絡先までお知らせ下さい。ご送金を確認後、2週間程度で領収書を発行させていただきます。

3) センター活動情報のお届けについて

ご寄付いただいた方には、当センターの活動情報をメールにて定期的にお送りいたします (ご不要でしたらその旨お申し付け下さい)。

4) ご寄付の公表について

ご寄付いただいた方で、ご了承いただきました方につきましては、お名前などを当ホームページなどで公表させていただきます。公表にご同意いただける場合は、その旨お問い合わせ・ご連絡先までお知らせください。

お問い合わせ・ご連絡先

【住所】 〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学 人間科学研究所気付 えん罪救済センター
※ 必ず「人間科学研究所気付」とご記入下さい。

【メールアドレス】 ipj2015@outlook.com

【電話/Fax 番号】 075-466-3362 (受付時間 9:00~17:30、土日祝日を除く)

本メールニュースについて

本メールニュースは、1~2か月に一度発行します。充実した内容にできるよう努めてまいりますので、ぜひお読みください。

内容について、ご要望等がございましたら、事務局宛 (寄付お問い合わせ先と同じ) にご連絡ください。

次号予告: 第2号 5月末に発行予定

内容 (予定): イノセンス・ネットワーク大会参加報告など

◆◆編集後記◆◆

いよいよえん罪救済センターが始動しました。今後は学生ボランティアを募集して活動に参加してもらうなど、社会に広く冤罪や刑事司法の問題への関心を集められるような動きにつなげていきたいと思っています。ご支援のほど、お願いいたします。Facebook のページも立ち上げました。ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/innocence.project.japan/>
(笹)

3月の立上げシンポジウムには大勢の皆様にご参加いただきありがとうございました。冤罪という問題の根深さを痛感するとともに、ご関心の高さを改めて実感しました。今後ともご支援の程よろしくお願いたします。
(山)